

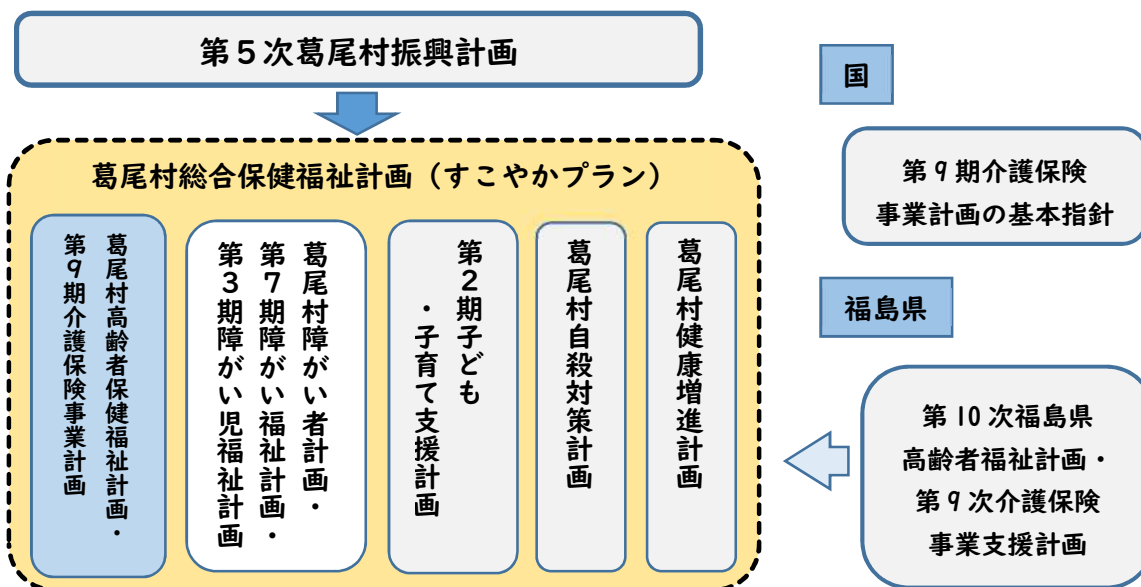
葛尾村
高齢者保健福祉計画
第9期介護保険事業計画
(概要版)

計画の背景

令和 7 年には、団塊の世代が後期高齢者になり、令和 17 年には団塊の世代が介護を必要とする割合が高い 85 歳以上になること、及び現役世代の急減が見込まれています。このような状況を踏まえ、第 9 期計画においては、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるむらにするために、「支えられる人」「支える人」という関係を越えて、地域みんなで支え合う地域共生社会の実現を目指し、令和 6 年度から令和 8 年度までの 3 年間の介護保険事業計画を策定するものです。

計画の位置づけ

本計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定に基づき、65 歳以上の高齢者を計画対象に、健康づくり、生きがいづくり、生活支援など、高齢者の保健福祉施策の総合的な推進を図るための計画として策定するものです。



計画の期間

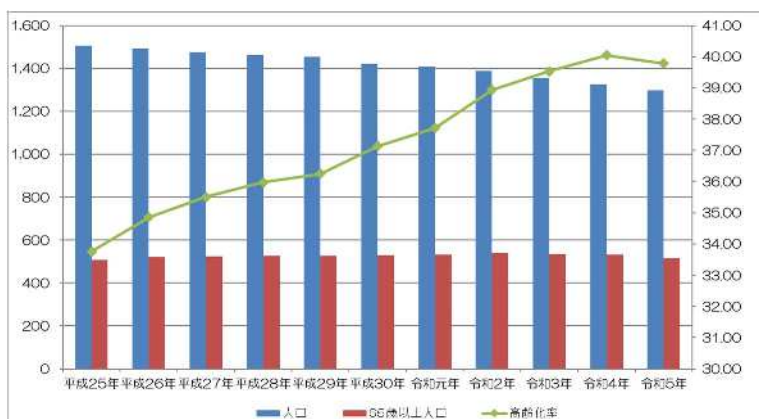
H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
※1 暫定 据置	※2 高齢者保健 福祉計画 第 5 期介護保険 事業計画		高齢者保健福祉計画 第 6 期介護保険事業計画			高齢者保健福祉計画 第 7 期介護保険事業計画		高齢者保健福祉計画 第 8 期介護保険事業計画				高齢者保健福祉計画 第 9 期介護保険事業計画			
			▲									▲			
			団塊の世代が 65 歳以上に									団塊の世代が 75 歳以上に			

高齢者の状況

●高齢者数

本村の人口は、年々減少傾向にあります。令和5年4月1日現在の総人口に占める65歳以上の人口（高齢化率）は39.78%となっています。人口が減少し、出生率も低下している状況から、今後、高齢化率は更に上昇することが見込まれます。

＜高齢者数と高齢化率＞（令和5年4月1日現在）



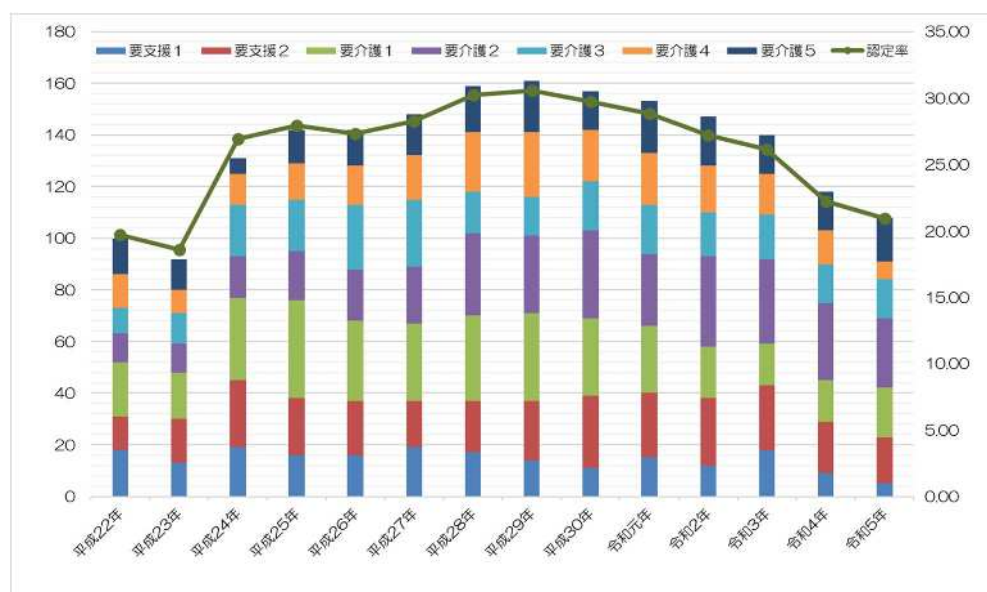
(単位：人、%)

	人口	65歳以上人口	高齢化率
平成25年	1,505	508	33.75
平成26年	1,492	520	34.85
平成27年	1,476	524	35.50
平成28年	1,462	526	35.98
平成29年	1,454	527	36.24
平成30年	1,422	528	37.13
令和元年	1,408	531	37.71
令和2年	1,387	540	38.93
令和3年	1,356	536	39.53
令和4年	1,326	531	40.05
令和5年	1,297	516	39.78

●認定者数の状況

東日本大震災前までは、本村の認定者数は横ばいの状況が続いていましたが、東京電力福島第一原子力発電事故による全村避難後、急激に増加し、平成29年をピークに徐々に落ち着きを見せています。

＜認定者数と認定率（高齢者全体に占める認定者の割合）＞（4月1日現在）



●避難者の状況

	単位：人		
	県内避難	復興公営住宅	県外
避難住民	605	135	43
うち高齢者（65歳以上）の人口	216	59	23

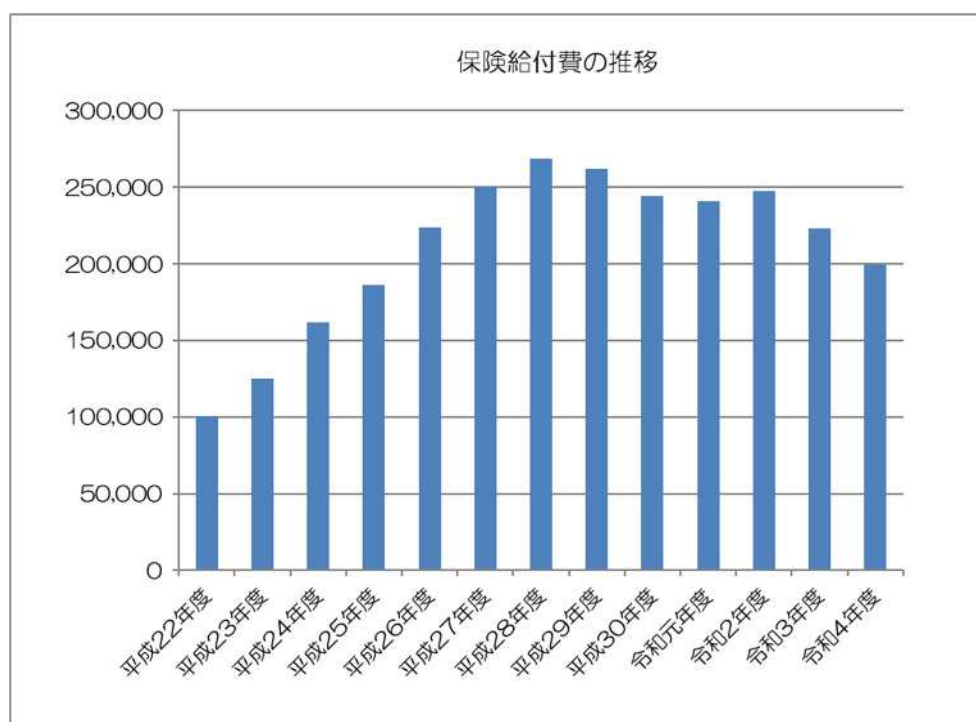
●保険給付費

震災後、要支援・要介護認定者数の増加に伴い、保険給付費は急激に増加し平成28年度がピークとなりました。平成29年度以降の保険給付費の伸び率は落ち着いてきており、全体の給付費は一時減少傾向となっておりますが、震災前と比較すると保険財政は依然として厳しい状況が続いています。今後も高齢化率が高まっていく中で、要支援・要介護認定者数は増えていくことが想定され、それに伴う保険給付費の増加を見込んでおく必要があります。

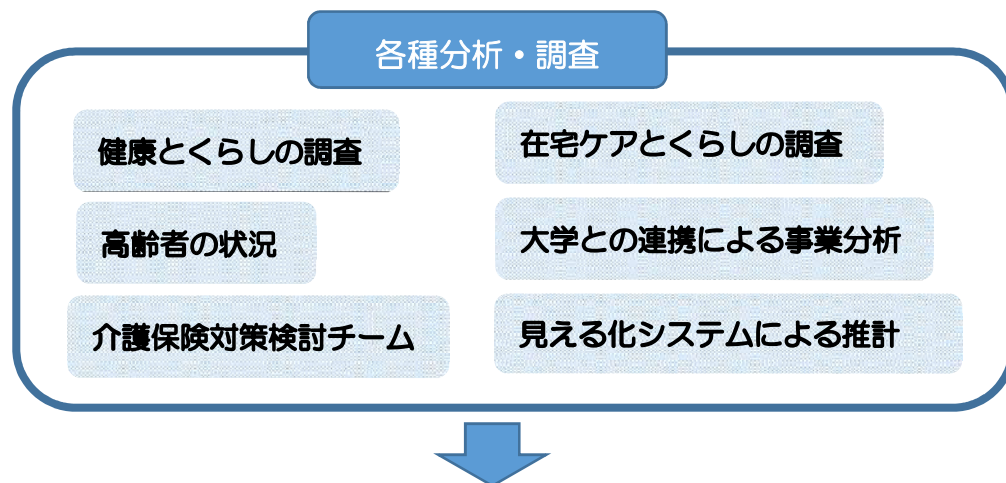
＜給付費の支出＞

(単位：千円)

	保険給付費	震災による 利用者負担免除分	(控除後支出計)
平成22年度	100,310	0	100,310
平成23年度	124,569	0	124,569
平成24年度	179,819	17,870	161,949
平成25年度	205,830	19,888	185,942
平成26年度	248,223	24,776	223,447
平成27年度	275,790	25,750	250,040
平成28年度	296,122	27,872	268,250
平成29年度	290,016	27,949	262,067
平成30年度	269,416	25,377	244,039
令和元年度	265,016	24,396	240,620
令和2年度	273,424	25,656	247,768
令和3年度	246,463	23,453	223,010
令和4年度	221,531	21,985	199,546



各種分析・調査から見た課題と対策



課題1 介護予防事業の推進

震災による避難の影響を受け、震災以前に比べ依然として支出は高い状況にあり、本村においては高齢者への介護予防・健康づくりを重点的に行い、健康でいられる期間を延ばすことが重要。

課題2 地域住民の交流・支えあいの推進

アンケートによれば、地域に愛着があり、最後まで暮らしたい方の割合は高く、地域で支えあうための仕組みづくりの充実が必要。

課題3 地域で安心して暮らせるため支援

認知症に対する不安・在宅介護を行っていくうえでの生活支援ニーズが高まっており、これらの環境整備が課題。

課題4 介護保険事業における基盤の強化

高齢化の進行・現役世代の減少や、震災からの避難による給付費増大の影響から、本村の介護保険財政状況はひっ迫していくことが想定され、介護保険事業の持続可能性を確保するため、保険者としての機能を強化していくことが重要。

課題5 避難先への支援

復興公営住宅がある三春町（恵下越団地）を中心とした事業を展開していくとともに、支援が難しい避難者については、避難先市町村との連携をとる必要がある。

計画の基本方針

令和 7 年には、団塊の世代が後期高齢者になり、令和 17 年には団塊の世代が介護を必要とする割合が高い 85 歳以上になること、及び現役世代の急減が見込まれています。このような状況を踏まえ、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるむらにするために、「支えられる人」「支える人」という関係を越えて、地域みんなで支え合う地域共生社会の実現を目指します。

みんながいきいき元気に
みんなで支えあい暮らせるむら
かつらお

基本目標

基本目標 1：自分の健康は自分たちで守る、健康長寿のむら

住民の介護保険に対する理解を深め、とりわけ介護予防の取組に最大限注力しつつ、村を挙げて「健康増進・介護予防」の取組を積極的に推進していきます。

基本目標 2：住み慣れた地域での暮らしをみんなで支える

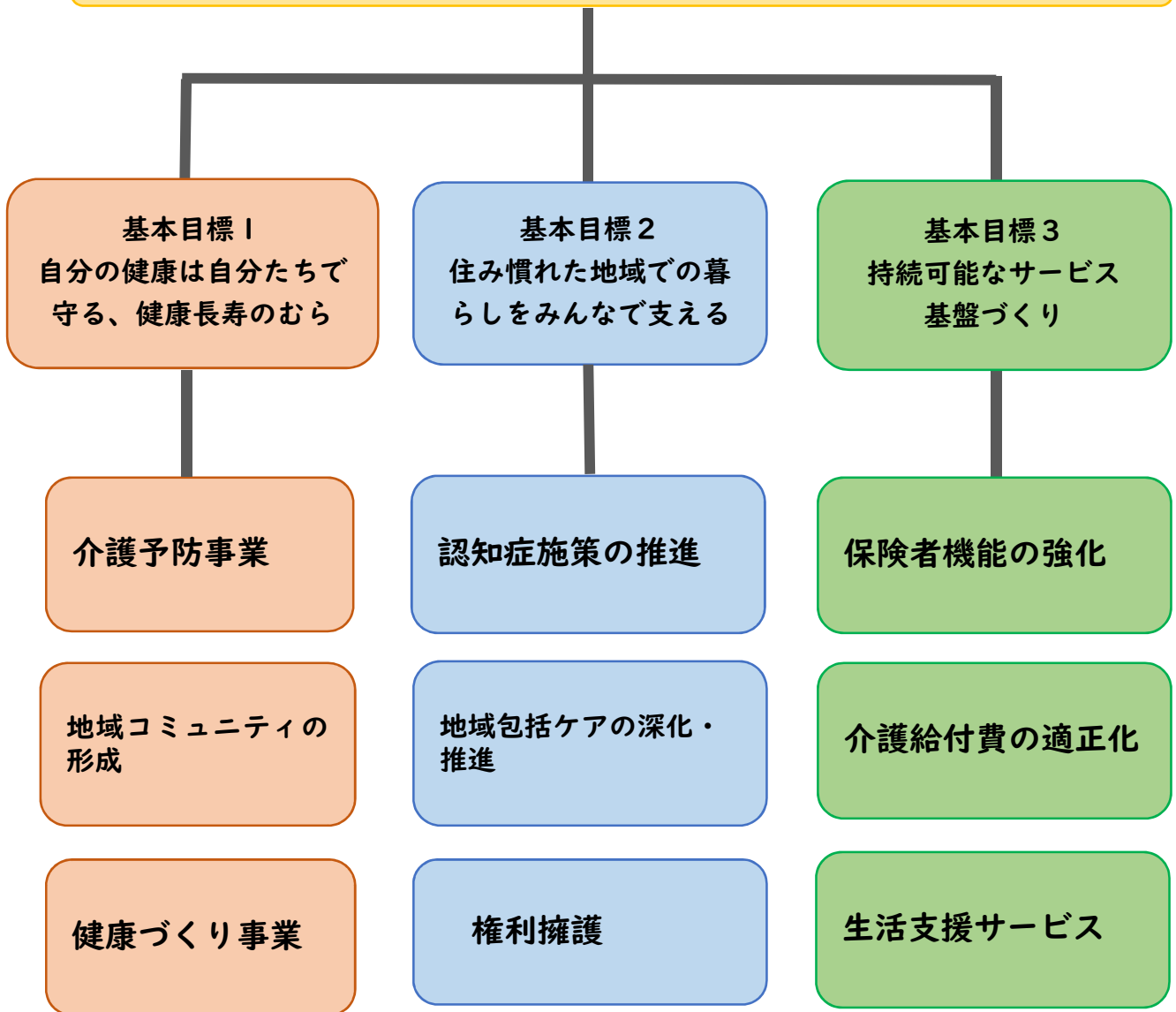
支援が必要になっても尊厳を保ちながら穏やかな生活を送ることができるよう、地域での支え合いの仕組みづくりを行います。

基本目標 3：持続可能なサービス提供の基盤づくり

介護保険サービスの充実を図るため、保険者機能の強化や給付費の適正化等、サービス基盤の強化を行っていきます。

施策体系

みんながいきいき元気に みんなで支えあい暮らせるむら かつらお



保険料について

介護保険料

第1号被保険者保険料の基準額は以下のとおりとなっており、この金額を基準に各所得段階の保険料が決まります。また、第1号保険者の保険料については、別途条例で定めることになっています。

(単位:円)

段階	年額	月額	計算方法
第1段階	24,972	2,081	基準額×0.285
第2段階	42,492	3,541	基準額×0.485
第3段階	60,012	5,001	基準額×0.685
第4段階	78,840	6,570	基準額×0.9
第5段階	87,600	7,300	基準額×1.0
第6段階	105,120	8,760	基準額×1.2
第7段階	113,880	9,490	基準額×1.3
第8段階	131,400	10,950	基準額×1.5
第9段階	148,920	12,410	基準額×1.7
第10段階	166,440	13,870	基準額×1.9
第11段階	183,960	15,330	基準額×2.1
第12段階	201,480	16,790	基準額×2.3
第13段階	210,240	17,520	基準額×2.4